こう?

「出版業界連続学生セミナー」 サマーセミナー2018

編集者になるまでに 身につけておきたいこと

エッセイスト、出版プロデューサー

山口ミルコ (やまぐち・みるこ)

後の進路だ。 決めていた。 決めていなかったのは、 出版社を退社するとき、 「編集者はもうやらない そう 退社

ひろがった。 はて、 日本語はもうたくさんだから、 考え始めると、 私は何をして生きてゆ いろいろ夢は

ひとつの狭い世界へ閉じ込めた。 旅しようかな……などとのんき のに、結局、その選択は、私を して、一歩踏み出したはずだった 闘病生活を送ることになった。 退社の矢先にガンが見つかった。 外国語を学び直してあちこちを に思いをめぐらせていたところ、 私は退社(2009年3月)後 出版界とは違う居場所を目指

> るとは、退社の時点では考えて ら「書く人」へ、全面的に転向す 日々は、 奥深く入ってゆく――そうした に向かう日々を過ごしている。 いなかったが、いま私は日夜、机 て生きて来た自分が、内へ内へ、 そして10年。本を「作る人」か 私を変えた。

すでに来なくなっていたが、3 野寺優社長とお会いした。 ったときに、河出書房新社の小 いる。学生向けにそう書いた。 ているか、わかるようになって 編集者がどのような仕事をやっ うなこの本を読むと、出版社の ル講義』という本に。日記のよ 体験は、『ミルコの出版グルグ 集を教える」という仕事である。 込んできた。大学で若い人に「編 姿を変えて、私のところへ舞い 年ほど前に、 私が編集の先生をやると決ま 一年半にわたった大学講師の - 日本出版クラブで学生向けの 「編集」の仕事が

だいていたフリー編集の依頼は

ていってくださった。 参考になるかもしれませんね?」 んがこんど始める大学での仕事の セミナーがありますよ、ミルコさ と小野寺さんはおっしゃっ 私を日本出版クラブへ連れ

> ある。 セミナー〉 それ が、

ったのは〈思索の旅〉。

の旅だったが、旅は旅でも始ま

思い描いていたのは海の外へ

それまでは外へ外へ、向かっ 役相談役)、下中美都氏 の基調講演を聴き、 筑摩書房元社長・菊池明郎氏

退社直後からパラパラといた さんの話を間近で聴いた。 役社長) —

会社が思い出された。 だよね!」と楽しかった時代の そうだった……出版社ってこう 受け取って、胸を打たれた。 いぶたっていたが、「そうそう、

版記念パーティを、 山事業部長と出会った。 「こんな素敵なクラブで、出 があり、日本出版クラブの杉 セミナー終了後に立食パーテ

でないと、この建物、 「早く本を出してくださいね。 なくなっ

の第一回だったので 〈出版業界連続学生

た。その輪に混ざって私もみな ションの時間も設けられてい 囲んで学生が質問をできるセッ お会いできない社長さんたちを 取締役社長)長岡洋樹氏(筑摩 長谷川晋一氏(東京創元社代表 社代表取締役社長)、今村正樹 締役社長〈当時〉。現在は取締 持谷寿夫氏(みすず書房代表取 寺優氏(河出書房新社代表取締 書房常務取締役)、そして小野 (偕成社代表取締役社長)、 ―普通ならなかなか そのあとは (平凡

出版事業への意気込み、情熱を が、それ以上に社長さんたちの 自分は出版社を辞めてもうだ 熱心な若者たちにも感心した

やりたいな

する直前の日本出版クラブ・神楽 てしまうんですよ」(杉山さん) その日から2年、神保町へ移転

人生何が起こるかわからない。 若者たちを育てることになった。 セミナー)のお仕事をいただいた。 坂での最後の夏に、私は〈サマー った自分が、「編集者をやりたい」 「編集者はもうやらない」と思

〈サマーセミナー〉レポート

※本文ゴシックは、各回の講 文・レポートより抜粋です。 座終了後の学生からの感想

第一回

「編集者の作法

上智大学 文学部新聞学科

た空気が和らいだ。 んの声が明るく響き、 始めましょうか!」との山口さ く、緊張感が室内を満たしてい たれた参加者の面持ちはやや硬 に並べられ、全員の距離が近い。 を囲うようにして椅子が半円状 回である。 講師として迎えたセミナーの が集まった。山口ミルコさんを 出版クラブ会館に、31名の学生 たが、18時きっかりに「じゃあ 「若き知の冒険者たち」と銘打 6月20日、神楽坂にある日本 会場にはスクリーン 張り詰め 初

師の紹介。山口さんの角川書店、 に続いて、スライドを用いて講 ひとりずつ出て自己紹介。学生 きた名札を胸に、みんなの前に 学生全員が事前に手作りして

ラストが可愛らしい。一人一人 山口さん手作りのテキストのプ の功績に見惚れる。 を目にし、その と目を合わせ、 リントで説明された。直筆のイ 法」だった。編集者の心得が、 初回のテーマは「編集者の作 話す相手の本質 〈敏腕編集者〉



つの編集部に見 立てたグループ学習は、 -冊の本の企画立案から台割り作成までを講師の指導

で進められた。

現した。 分で企画する」と表 集者は、自分の人生 つつ、考え出せば浮 ランで参ったと思い 前告知なし、ノープ 義の冒頭、先生は「編 かぶものである。講 は、企画書作成。事 編集者はビジネス

うして作られた作品は、形とな 実物として現れるのだろうか。 ある企画書もいつか自分の前に 者はオモシロイ。 分に還ってくる。だから、 り、目に見える状態ですべて自 作費の調整、新人の発掘、 請け負いつつ利益を考える。そ ーソンだ。 企画書の立案や製 今、 目の前に 編集

魅力なのだろうか? に語り掛けるその姿 専攻修士1年 政学研究科児童学 日本女子大学 編集で培われた 「編集者と

エンピツを走らせる 沈黙と、カリカリと 第二回目の教室に 企画書なんて聞 今回、

いてないです、

吉澤志保乃

**学科** 4年

須磨勇真

規役編集者の方々に向けて催

下関市立大学

経済学部経済

「自分の人生分で企画する」その言葉どおり、 企画が出来上がった。

第四回

校閲講座

講義終了後に提出した。次週は 添削されて返ってくるという。 各自が考えた企画は、

取り組んでいるの 音がする。受講生が

ていただいた。 新人を育てるお話などを聞かせ の距離感のバランスの取り方や さん(河出書房新社・取締役編 て、豪華な講義となった。 集本部長)には、 編集者さんお二人をお迎えし れたのち、先生の本を担当した 名言の数々がスライドで紹介さ 編集者歴38年という阿部晴政 最初に「編集者の心構え」 1年 品野未羽 作家と編集者

慶応義塾大学 法学部政治学 第三回「作家と編集者の関係.

仕事を続けていることなどをお 編集者として結婚・出産を経て フィクション編集部) 輩・千美朝さん(光文社・ノン ミルコ先生の会社時代の後 は、 女性

話くださり、興味津々だった。 会だった。 いうお仕事、その現役の方々の ルコ先生がおっしゃる編集者と お話もたっぷり聞けて貴重な機

それぞれの持ち味が感じられる魅力的な

体的にどのような仕事な きは自由な表現であるが もしれないと疑う姿勢は 聞いて、間違っているか をつけろと教わっていま と思えるセンス」 は知識ではなく、怪しい 奥野さんが「重要なこと かった校閲について、 社校閲部部長の奥野仁 された講座(講師・講談 した。また校閲が守るべ に点と点が繋がる思いで 重要であると学び、 した。しかし今回お話を 性を意識していませんで 父親から、物事を疑う癖 ていたことです。 した。印象に残ったのは、 のかを知ることができま メージでしか捉えていな した。ぼんやりとしたイ の学生も見学・参加しま ぼくたちサマーセミナー 氏)だったそうですが、 したが、あまりその重要 」と仰っ ふだん まさ



全員に用意さ を装着して行われた。 現場担当者の説 実際 しているようだった。 る学生の好奇心は、 「見学」から「取材」の域に

とは山口ミルコ先生が仰ってい そこには責任が伴う、というこ だし愛に溺れない」に通じるも た「愛をもって追いつめる、 た

面白い仕事第一位!」とミ

第五回 上智大学 「原稿とのつきあいか 文学部国文学科

今回は、 3年 二宮佳代子 より実践的に、

のがあると感じました。

作家が原稿を完成させたとき

況が発表された。

その内容はど

いただいたり、

触らせていた

倉

庫

0) 様 子

のVTRを見たあ

た、

)班も非常に魅力的で、

完成す

だいたり、 7

集者の動きについて学ん

つ ゲストの ての記録を残す」というものだ 学生は数人ずつチームを組み、 版社の楽しさについて知ること でミルコ先生の連載を担当した た。 つの企画を立ち上げよという 合を受け取った。 できたと思う。 一験した上でのお話には、 仕事だけでなく営業や広報も ・西達也さん(中央公論新社 つづいて、 がお見えになり、 お話とはまた違った出 このセミナーについ 雑誌 | 婦人公論 授業の後半 与えられた 前回 編集 ഗ

授業終了時に、 各班の企画状

> ジを語り合うことで、 むことができたように思う。 意に触れ、 ちだったが、 ない中で集められたメンバーた だまだ完全に打ちとけられてい るのがとても楽しみである。 共感し、 各々にあるイメー 一歩踏み込 互いの熱

の作業所見学では、 大変面白かったです。 早稲田 歴史や仕 第六回 訪問しました。 第六回の授業では平河工業社 現工学科 大学 事についての講義 3 年 基幹理工学部表 前半は、 機械を見せ 森岡祐士 また後半

印刷工場見学

では私は革命児と出たので、 と、そこに言葉が書かれてある) ح 編集者を志していますが、 が、体験できたのは大きな財産 は分かっていたつもりでした 的 れを信じて今後も邁進していき い ? 田副社長からいただいた名刺 りそうな仕事に感じました。 いうのもなかなかやりがいの なりました。 な分野も学んでいるので理屈 (名刺の束から一枚引く 私は現在漫画の

第七回「出版というビジネス\_ 営 [業と出版業界の現状] マ。 ゲストに河

の今後、 の課題……などにつ 営業の仕事、 てくださり、 長をお迎えする。 出 房新社の小野寺優社 学生からもたくさ 書房新社〇B 郎氏も駆けつけ 版事業全体 出版社 本屋さん また の 野

私は大学で視覚芸術 印刷 た。 するなどバラエティに富んだア その製作発表会。 イデアが出て作成が進められ て、 「編集者の十カ条」をコミック化 作るという宿題が出てい それぞれの班で企画ページ 受講生がグループに分かれ 授業でやった

を過ごした。 たちのクラスを担任し、 界、その出版界をめざす若者 自分が去ろうとしたはず ひと夏 Ó 出

うなものだったのか、 ミナーが私自身にとってどのよ あしかけ三ケ月にわたったセ それ iz

集部の製作発表会はユニ クなアイデアと工夫があふれていた。

> 々を生きるしかない。 は時代と仕事する。 出版社に尽くすため 学生たちに学ん 転機だっ 単車を ず 時間 は、 そ っ た  $\mathcal{O}$ ス と 向 を 5 た

うまくできなかった。 前 でもらいたい……彼が か 人数はある程度、絞り、 を本気で育てたい、そのために 0 Þ ち上げた杉山部長が、 学生のための連続セミナーを立 11 思っていた自分が、この役を引 け ただいた。 ートを切ったばかりだ。 いら温めてきた」企画 合うなかで、 けて講師が彼らとじっくり 出版業界を背負う優秀な人材 ことにはちがいない。これか ってきたあの日。 てウチの近所のデニーズまで |体である日本出版クラブで、 が、 受けていいのだろうかとの 編集者はもうやらない」 ない。しばらく時間がかかる。 て書くよう原稿のご依頼を のどこかにまだ残っ けれども私はそれ いまは ーそう 7 思 を 17

だけは、 た変化だった、 た私のなかで、 は 伝 〈あの日々を悔いなく過ごし )仕事 年齢は関係ないのだというこ 流れても、 わ であるかどうかはおのずと ってしまうもの、 が、 をつとめさせていただい はっきり言える。 わかった。 それを受け取るの たしかに起こっ そのこと そして時 今回

6月20日(水) 18:00~19:30 編集者の作法 編集者をとりまく人々とその仕事 8月5日(日)

日 (火) 14:00~17:00 現役編集者が学ぶ校閲実習に参加しよう! 講師:講談社 編集総務局校閲第二部 部長 奥野仁氏 7月18日 (水) 18:00~19:30 7月25日(水)14:00~17:00

18:00~19:30 作家と編集者の関係

現場学習「印刷物の出来るまで」 都内印刷工場見学

編集者になるまでに身につけておきたいこと

◆ 開催要項 ◆

参加資格:原則として全8回に出席可能な学生(特定日のみの参加はできません)

◆ 開催日程 ◆

催 : 一般財団法人 日本出版クラブ 場 : 日本出版クラブ会館 会議室 新音及器町 6番前 (衛雲大江戸縣 「中込神楽坂駅」 A2 出口後歩2 分)

参加対象 : 出版社の編集部に就職を希望する大学生、大学院生

出版社の編集部に対職を希望する就活生を対象に、全8回の夏期騰習を開催します。 受講生それぞれの個性や適正をしっかりと見極めながら、最適な進路を拓けるように、 クラス制・限定30名の講座です。講師は、かつて角川書店、幻冬舎で編集を担当し、 数々のベストセラーを世に送り出した伝説の編集者・山口ミルコ氏、出版最前線で鍛え られ、培われた編集者魂を余すことなくお伝えします。

この夏、千載一遇のチャンス!来たれ、若き知の冒険者たち

講師略歴

山口ミルコ

エッセイスト、出版プロデューサー 角川書店雑誌編集部をへて94年2月、幻冬舎

数々のベストセラーを世に送る。

「婦人公論」で読み物を連載中

公式 HP ミルコのミルは平和の мир

https://yamaguchimiruko.tanomitai-z.com.

、。プロデューサー、編集者として、文芸から

芸能まで、幅広いジャンルの書籍を担当し

2009年3月に幻冬舎を退職後はフリーランス。

著書に『毛のない生活』『毛のカ ロシア・ファ

-ロードをゆく』『似合わない服』『ミルコの出版 グルグル講義』がある。

18:00~19:30 出版というビジネス ゲスト講師に河出書房新社社長 小野寺優氏をお迎えして

熱

トークセッショ 質問が飛び出

0)

繰り広げられた。

て、

15:00~16:30

終回「本の

本の一生

くる、 グル 講義』 ミルコの出版グル 製作発表 本の廃棄工 の 中に出 場と



## サマーセミナー体験報告

早稲田大学文学部考古学コース 3 年 Ш ゆりえ

は、けっして編集者に特別な技

がすごく多いの」。ミルコさん は大事。人とご飯を食べる機会 めのものです」「ご飯のマナー は自分からは見えない。人のた 坂出版クラブで出会いました。 か。その一つの答えに、私は神楽 どんな顔を見せるのでしょう によって行われたセミナー。第 )口から語られる編集者の作法 回は「編集者の作法」。「洋服 夢が夢でなくなった時、 出版業界を志望する学生を対 編集者・山口ミルコさん

れない光景でした。本に、仕事 きない処分という工程。忘れら と熱意をかけて編み、刷った何 を見せていただきました。時間 の死、本の処分のようすをミル に、誠実であるということ。 商品である以上、欠くことので ばらに刻まれていきます。本が 千冊もの結晶が、目の前でばら コさん自らが撮影なさった動画 能ではありませんでした。 最終回「本の一生」では、本

> 感じました。 という信条につながっていると さんの「じぶんの人生分で勝負 八回のセミナー全てが、ミルコ

や苦難もあった人生に「編集者 閲実習や、平河工業社での印刷 社校閲部の奥野仁氏に教わる校 とても魅力的でした。続く講談 と笑うミルコさんの顔だちは、 は、チャーミングじゃなきゃ\_ 楽を愛するひとりの女性。波乱 のサバイバー、非常勤講師、音 ベストセラー編集者、

> は、確かにその高揚感が表れて きれいな姿勢とメモを取る手に た学生の、誰一人足を組まない のように輝きたい。あの場にい ぶんの人生」にしてミルコさん

癌から いました。

陽ではなく、現実と地続きの目 にしるべを増やすためのものな ナーは、学生たちがゆくその途 標地点の一つであり、このセミ 現実的な視点に、はっとしまし のだと。セミナー終盤、学生た た。夢はもはや遠く輝かしい太 って仕事をしていくか」という 在地を伺った回、私は「どうや にビジネスとしての出版界の現 河出書房新社の小野寺優社長

所見学など、経験のすべてを「じ

我々に火をつけてくれました。 もった言葉は、出版業界を志す 心から信じ、未来の出版人とし いを胸に。まず第一期ミルコチ あの日から燃え続ける、熱い思 て接してくれたということを。 言葉には熱い思いと説得力があ い! 今まで受けてきたどんな す。しかし、これだけは言いた 容の詳細を書くことは避けま ったこと。我々学生の可能性を セミナーよりも、ミルコ先生の セミナーですから、 上辺の言葉ではない、 これ以上内 心のこ

我々が信じなくては誰が信じる

か! 今までも、そして、これ

が、物語が持つ無限の可能性を

った、ただの少年に漫画編集者 要です。夢も何も持っていなか からも世界には物語が、本が必

多

産業だと散々な言われようです

昨今、やれ出版不況だ、

進むべき道を示す地図にもなる。

るゴーグルの時もあれば、自身の

ちは疑似編集部として、未完成 ながらも誌面のサンプルを用意 てもチャーミングでした。 し、自分たちの考えた企画をプ

夢が夢でなくなった時、私はど ミルコさんの言葉は、肯定でも 多くの人々が、本の一生に関わ んな顔を見せるのでしょうか。 ます。「編集者」という私の夢。 「つねに、あなたでいい」という んな顔を見せる私でいるのか。 でしょう。私はそれらの顔にど れる顔は、きっとさまざまなの っています。その時その場で現 から見ても、その顔はどれもと レゼンしました。同じ学生の私 私がいま夢想するよりずっと 同時に問いかけでもあり

専修大学文学部日本文学文化学科

崎

友

也

やってきた大チャンスです。 とっての就職活動は、 ものなのですが、僕の場合は少 らマイナスイメージで語られる 問いにお答えしましょう。 です。よく、就職活動は学生か 内容もそれらしくなって、いよ 活動とは何であるのか、という し異なっているようで…。 いよだ、と身が引き締まる思 てきました。友人たちの会話の さて、では君にとっての就職 就職活動がいよいよ本格化し ようやく

加しました。日本出版クラブ主 催 まで、漫画編集者を夢見てきま という作品に出合ってから今日 学5年、「週刊少年ジャンプ」 注入しております…。 んな、嬉しい思いを抱きながら、 来る立場にようやくなれた。そ で連載していた『バクマン。』 各社のエントリーシートに魂を した。その夢を叶えることが出 時間を巻き戻しましょう。昨 夏。僕はあるセミナーに参 山口ミルコさんによる連続

し! ば、ベストセラーは生まれない!」 べし! 柄をミルコ先生の経験から学生 っておいた方が良い、と思う事 セミナー。編集者になる前に知 に伝えるといった内容でした。 「本が生まれ、死ぬまでを知る 部を紹介します。 「自分の人生分で勝負するべ 良い営業さんと出会えなけれ 「編集者に必要な十カ条は…、」

これからもぜひ続いてほしい

することをここに誓いましょう。 ルドレンとして出版業界で活躍 物語は様々な力を持っていま 知らない世界を見せてくれ という目標をくれたように。 とが僕の使命であると思ってい 今生のかぎり世の中に届けるこ 夢を与えられるような作品を、 くの人々の心を動かす作品を、 諸先輩方、これからどうぞ、

よろしくお願い致します!

す。